

子どもを見る工夫（ことばのたね）

「チクチクしてるのって？」（3歳児）

社会福祉法人長尾会 第2長尾保育園（大阪府）



子どもの姿と保育者のかかわり

各クラスで夏野菜を植えることになり、3歳児はキュウリ、トマト、ナスを担当することになった。3歳児なりに世話をしてきたことで、紫の花に興味をもったり、水やりを日々頑張ったりし、収穫を迎えた。

「見てみて！こんなに大きいい！」と喜びながらナスをくるくる回して見ていると、

「ここ、チクチクして痛い」とへたの部分を指さして言う。

「何でこんなにチクチクなんやろ…」と他のナスも見比べる。

他のナスが虫に食べられているのを見て「あ！穴空いてる！虫さんに食べられたんや！」

「こっちは食べられてないな」「チクチクしてんのって、虫さんに食べられたくないからちゃう？」

「うん、チクチクしてたら虫さん痛くて食べられへんもん」という会話が聞かれる。



ポイント

子どもたちの何気ないやりとりの中に、ものの特徴を捉えて興味をもっている「科学する心」が見えてきます。よく観たり触ったり、他のナスと比べたり、その場にはいないナスを餌にする虫もイメージしたりするなど、3歳児なりに考えを巡らせ、それを友達と共有できていることが読み取れます。

カメの気持ちになって（3歳児）

社会福祉法人謝徳会 すくすく保育園（大阪府）



子どもの姿と保育者のかかわり

保育者が家で飼っていたカメを3歳児のクラスで飼育することになった。名前を「ミルクちゃん」と付けて、毎日見たり、水換えやエサやりをしたりする。カメとの遊びを子どもたちは楽しんでた。

そんな中、M児は触ろうとはせず、見ているばかりだった。

保育者がなぜ触らないのか聞いてみると、

M児「ずっと触ったら、ミルクちゃんしんどいもん」と答える。

その後、M児はカメについて書いている図鑑や絵を見てその特徴を理解し、ブロックで立体的に表現したり、絵に描いたりするようになった。

また、カメの側面や裏側までよく観ている姿から、観察する力につながっていると感じた。



ポイント

「ミルクちゃんがしんどいもん」は、大好きなカメの気持ちに自分自身がなっていることで表れる言葉だと思われます。日々観ることで、3歳児なりにカメへの興味が継続し、カメへの愛着も生まれ、更によく観ることに繋がっています。保育者がM児の姿にも着目して変容を捉えているので、体験や成長が把握されることも期待できます。